



万国外科学会(ISS/SIC) 日本支部ニュース

News of Japan Chapter of International Society of Surgery

発行: 万国外科学会(ISS/SIC)日本支部
〒160-8582 東京都新宿区信濃町35
慶應義塾大学医学部外科学教室
TEL: 03-5363-3802 FAX: 03-3355-4707
発行者: 北野正剛
編集責任: 万国外科学会(ISS/SIC)日本支部事務局長
和田則仁(慶應義塾大学医学部外科学教室)
印 刷: 株式会社 dig TEL: 03-3551-3060
年2回発行 1995年4月創刊

2016年度 ISS/SIC理事会に出席して

大分大学学長
ISS/SIC Councillor
ISS/SIC 日本支部長
北野正剛



本年度、万国外科学会日本支部は、4月1日に日本支部ニュース第42号発行するとともに、4月16日に第41回万国外科学会日本支部総会(於:リーガロイヤルホテル大阪)を開催いたしました。総勢31名の会員の先生方にお集まりいただき、ISS/SIC理事会報告や、World Congress of Surgery(WCS)2017 Baselへの取り組みなどが議論されました。特にISDSのPresident Electである今野弘之先生からは、PresidentのAlberto R. Ferreres教授から日本人の参加なしでは本会は成立しないと話があり、来年のバーゼルへの参加が呼びかけられました。日本支部としても、WCS2017 Baselにむけてのプロモーション活動しております。日本消化器外科学会、日本癌治療学会、日本臨床外科学会、日本内視鏡外科学会の4つの会合でポスター掲示とちらし設置を行っています。また、参加予定の会員を司会者として推薦すべくリスト作成を例年より早めに開始しております。WCS2017 Baselの演題締め切りは来年1月18日となっていますが、それに合わせて若手支援プログラムであるYokohama Awardの募集も開始しました。是非、若手の積極的な参加をお願いしたいと思います。今年度、日本支部から山川達郎先生を名誉会員に推戴することが決議されました。推薦に向けた準備にも鋭意取り組んでいます。

また、10月16日にワシントンD.C.にて開催された、ISS/SIC Executive Committee Meetingに日本支部長として参加してきました。

順調に会議は進み、特にWCS2017 Baselのプログラムについて深く話し合いがもたれました。ここでも、日本からの積極的な参加登録を依頼されておりますので、是非先生方のご参加をお願い致します。Baselは今まで多くの学会が開催され、かつ観光地としても有名であります。日頃から多忙な会員の皆様にスイス国内のモンブランやマッターホルン、インターラーケンやアルプス村など、スイス国内は交通アクセスがスムーズですので、ぜひこの機会を利用して観光地をご訪問して下さい。非常に魅力的な地ですので、ご一緒致しましょう。

以上、報告となりましたが、今後とも、ご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

ISS/SIC Executive Committee Meeting

At Capital Hilton Hotel, Room "Stater A", Washington DC, October 16, 2016

AGENDA

Invited, confirmed: M. Patti, A. Ferreres, K. Boffard, J. Hunter, A. Hill, D. Linos, S. Bickler, C. Storz, M. Iliopoulos, S. Hwang

Guests: M. Sarr, A. Ozkiz,

Apologies: D. Henne-Bruns, S. Pillay, R. Parks, D. Lobo, M. Joshipura, C.-H. Yip.

08:00 Beginning of the Meeting

1. Welcome by the Society President (2')

a) Approval of the minutes of the March 2016 meetings
b) Presentation to Vice-President

c) ISASS

d) Approval of new Members (attached)

e) Newsletter – submit text by end of October

3. Nominations of new Executive Committee Members (10')

a) Deadline for submission of names 31.12.2016

b) 2 New councilors

c) President elect

d) Treasurer

4. Nominations at March 2017 meeting - proposals for: (10')

a) ISS/SIC Honorary Members (Infect)

b) ISASS Prize 2017

c) René Lenière Prize 2017

d) Martin Algiwater Lecture

5. ISS/SIC Finances (10')

a. Situation of members and Budget update 2016

b. Financial statement with CMS – amount to be distributed

c. Member statistics

6. WJS Editor Report (15')

a) Report by the Editor in Chief

b) Report by Springer – Results Retreat meeting

c) Report by the Board Members 2017

f) Twitter journal club

7. World Congress of Surgery WCS 2017 Basel (30')

a) Scientific Program ISS/SIC

b) Opening Ceremony – Schedule – Speaker for CMS

C. Storz

K. Boffard

M. Patti

M. Iliopoulos

J. Hunter

A. Hill

M. Sarr

A. Ozkiz

M. Boffard

M. Iliopoulos

M. Patti

M. Sarr

A. Ozkiz

M. Boffard

M. Iliopoulos

M. Patti

M. Sarr

A. Ozkiz

M. Boffard

M. Iliopoulos

M. Patti

M. Sarr

A. Ozkiz

M. Boffard

M. Iliopoulos

M. Patti

M. Sarr

A. Ozkiz

M. Boffard

M. Iliopoulos

M. Patti

M. Sarr

A. Ozkiz

M. Boffard

M. Iliopoulos

M. Patti

M. Sarr

A. Ozkiz

M. Boffard

M. Iliopoulos

M. Patti

M. Sarr

A. Ozkiz

M. Boffard

M. Iliopoulos

M. Patti

M. Sarr

A. Ozkiz

M. Boffard

M. Iliopoulos

M. Patti

M. Sarr

A. Ozkiz

M. Boffard

M. Iliopoulos

M. Patti

M. Sarr

A. Ozkiz

M. Boffard

M. Iliopoulos

M. Patti

M. Sarr

A. Ozkiz

M. Boffard

M. Iliopoulos

M. Patti

M. Sarr

A. Ozkiz

M. Boffard

M. Iliopoulos

M. Patti

M. Sarr

A. Ozkiz

M. Boffard

M. Iliopoulos

M. Patti

M. Sarr

A. Ozkiz

M. Boffard

M. Iliopoulos

M. Patti

M. Sarr

A. Ozkiz

M. Boffard

M. Iliopoulos

M. Patti

M. Sarr

A. Ozkiz

M. Boffard

M. Iliopoulos

M. Patti

M. Sarr

A. Ozkiz

M. Boffard

M. Iliopoulos

M. Patti

M. Sarr

A. Ozkiz

M. Boffard

M. Iliopoulos

M. Patti

M. Sarr

A. Ozkiz

M. Boffard

M. Iliopoulos

M. Patti

M. Sarr

A. Ozkiz

M. Boffard

M. Iliopoulos

M. Patti

M. Sarr

A. Ozkiz

M. Boffard

M. Iliopoulos

M. Patti

M. Sarr

A. Ozkiz

M. Boffard

M. Iliopoulos

M. Patti

M. Sarr

A. Ozkiz

M. Boffard

M. Iliopoulos

M. Patti

M. Sarr

A. Ozkiz

M. Boffard

M. Iliopoulos

M. Patti</p

IAES (International Association of Endocrine Surgeons) 報告

独立行政法人国立病院機構
東名古屋病院 病院長
IAES Council

今井常夫



万国外科学会(ISS/SIC)には6つのCollective Member Societiesがありますが、国際内分泌外科学会(IAES: International Association of Endocrine Surgeons)は1979年のISS/SICから加わった、もっとも歴史のあるSocietyです。

2015年8月にバンコクで開催された第46回WCSでは内分泌外科で口演発表5題、ポスター発表7題が日本からでした。IAES State of the art lectureで隈病院の宮内昭先生が甲状腺乳頭癌の講演をされ、内分泌外科のFree paperで5名の日本人がModeratorを務めました。学会直前の爆弾テロのため全体の参加者は減りましたが、日本からのIAES関係者は比較的多くバンコクへ行かれたのではないかと思います。

IAESは1989年に藤本吉秀先生(東京女子医大)が、2004年に野口志郎先生(野口病院)が会長をされています。2004年のIAESは、2003年にバンコクで開かれる予定だったISS/SICがトリインフルエンザのため中止になり、翌年IAESだけスウェーデンで開催されたものです。残念ながら2016年7月23日に藤本吉秀先生が逝去されました。

私がはじめてIAESに参加したのは1995年のリスボンでした。私は副腎外科に興味がありクッシング症候群に関する発表をしましたが、同じセッションで腹腔鏡下副腎摘出術のビデオ発表を見て目からうろこが落ちる思いをしたことを覚えています。当時日本内分泌外科学会ではクッシング症候群や褐色細胞腫といったリスクの高い患者に対しては、安全な手術となっていた開放手術による副腎摘出術を選択すべきであるという風潮でした。腹腔鏡手術はまだ安全にはできないとみなされていて私も同じように考えていました。しかしリスボンで見た腹腔鏡手術は、これなら安全に手術できると思えるものでした。百聞は一見にしかずで、論文ではわからないことが学会では得られると痛感し

たものです。そのときビデオを発表していたサンフランシスコ大学のQ.Y. Duh先生は、親切に後日発表ビデオとともに他のビデオも私のもとへ送って下さい、側方アプローチの腹腔鏡下副腎摘出術を最初に報告したM. Gagnerを紹介してくれました。Q.Y. Duh先生とは今でも懇意にしています。

IAESで発表されるのは甲状腺・副甲状腺・副腎が多く、MENや臍内内分泌腫瘍に関する演題もあります。それぞれの国で歴史やシステムの違いがありますが、甲状腺は耳鼻咽喉科と、副腎は泌尿器科との境界領域であることは共通しています。甲状腺・副腎は解剖学的には耳鼻咽喉科や泌尿器科が近い臓器ですが、内分泌外科医はホルモン産生という特性や、MENのように散発性腫瘍と自然経過が大きく異なる疾患の理解などで内分泌内科医から強い信頼を得ています。ISS/SICにおけるIAESのように日本においても外科の中で内分泌外科の存在を主張していきたいと思います。

IAES Councilは長らく隈病院の宮内昭先生が務めてこられましたが、2015年8月にバンコクで開催された第46回WCSのあと私が引き継ぎました。まだCouncilとしての働きはほとんどできていませんが、IAESにおいて日本人の発表が少しでも増えるよう微力を尽くしたいと思っております。来年8月にスイスBaselで開催されるWCS2017にたくさんの演題が応募されることを期待しております。



WCS2015へ日本から参加した内分泌外科医の一部

万国外科学会と私

東京大学大学院医学系研究科消化管外科
准教授

野村幸世



皆さん、こんにちは。この度、ニュースレターへの寄稿をすることとなりました野村です。こここのところ、毎回、万国外科学会日本支部総会には出席させていただいておりますが、残念ながら、International Surgical Week(現World Congress of Surgery)には出席したことがありません。そんな私が寄稿しますことをどうぞ、お許しください。

私は胃癌を専門といたします外科医でありますと同時に、胃癌の研究者であります。2002年から2005年、Vanderbilt大学外科にResearch Fellowとして留学いたしました。その時学んだことは多く、まず、研究業務を専門とする私が配属された研究室もれっきとしたDepartment of Surgeryであります。週に1度、臨床もやられておられる先生とともにカンファランスもありました。大学で教員として働かれている外科の先生でラボをお持ちでない方というのはほとんどおられなかったと記憶しています。皆さん、臨床と同

時に、自ら研究もなさっておられました。

もう一つ感心しましたことは、リサーチに関しましては、世界規模にどんどん共同研究を推進し、効率化を図っていることでした。実験手法に関しては特に、お互い、教え合い、秘密主義に走ることはありませんでした。

日本に帰って参りまして、日本はまだ世界規模の共同研究は少ないと、臨床のフィールドでは特に日本国内のみで通用する常識が多いことにも悩みました。日本は上級の医療を提供している国だと思います。これは十分に世界に発信します価値があると思います。これからはもっと世界規模に臨床のフィールドでも交流を深め、他国とも一緒に医療を進歩させられたらいとと思っています。

と、思い、ISW(現WCS)には積極的に参加できたらよかったです。残念ながら、子供を持つようになり、ここ10年間はほとんど海外には行っておりません。それ以前は、海外に出ますと日本よりも呼吸がしやすいと感じていた私にとりまして、海外に行けないことは大変ストレスであります。万国外科学会日本支部総会に参加し、海外に行かれた先生方のお話を伺い、少しでも海外を垣間見ることがせめてものストレス解消になっております。いつの日いか、ISW(現WCS)にも出席できる日が近いことを祈っております。その時は、また、よろしくお願いします。

第41回万国外科学会(ISS/SIC)日本支部総会 議事録

2016年4月16日(土曜日)午前7:15~8:00

於: リーガロイヤルホテル大阪 クラウンルーム タワーウイング28

出席者: 伊澤祥光、今井常夫、海野直樹、掛地吉弘、片田夏也、加納宣康、神谷欣志、北川博昭、北川雄光、北島政樹、桑野博行、今野弘之、島田英昭、島田光生、杉岡篤、田中淳一、寺島雅典、夏越祥次、西田俊朗、野村幸世、東口高志、福島亮治、藤村隆、前田耕太郎、松原久裕、宮澤光男、守瀬善一、矢永勝彦、吉田昌、若井俊文、和田則仁(敬称略、五十音順、計31名)(事務局: 奥田京子 佐野富貴)

1. 開会の挨拶 北川雄光前日本支部長(総会当日未明に九州地方で地震が発生。大分県は震度6を記録。現日本支部長北野正剛先生は大分大学長として急遽お帰りになられた為、北川前日本支部長が代理でご挨拶。)
2. 前回議事録の確認
3. 支部活動報告 会員動向等について報告(日本支部ニュース第42号に掲載)
4. 決算・予算案 原案(日本支部ニュース第42号に掲載)通り承認された。
5. ISS/SIC 理事会報告

北川前日本支部長: 北野日本支部長が、2016年3月11-12日のISS/SIC理事会にご出席された。本日は代理でご報告。World Congress of Surgery(WCS)2017では、President ElectやGeneral Treasurerが改選予定。また、Honorary Memberの推薦が12月締切。前回は、北島政樹先生を推薦し満場一致で受理された。今回は、元日本支部長の山川達郎先生を推薦したい(満場一致にて推薦決定)。また、WCS2015バンコクの会期中にJean-Claude Givel事務局長が急逝され、Secretary Generalは空席となり、ISS/SIC本部事務局のMr.Victor Bertschiが実務を代行していたが、北島先生のご推薦もあり、英国出身で現在南アフリカの外傷外科医Dr.Kenneth D.Boffardが、Secretary Generalに就任。ISW2011(現WCS)日本開催時には会長を務められ、IATSICでは何度も日本に足を運んでくださっている。また、次回理事会はAmerican College of Surgeons (ACS)会期中の10月16日にワシントンで開催予定。イスのバーゼルでの理事会は、来年3月17-18日を予定。WCS2015バンコクは成功裏に終わり、その余剰金は地元タイのRoyal College of Surgeons of Thailand (RCST)およびLocal Organized Committee ISS/SIC (LOC)で正当に分配された。WCS2019は、ポーランドのクラクオに決定。WCS2021は、オーストリア、台湾、マレーシアが候補地となっている。立候補は本年末までなので、来年のバーゼルでの理事会で決議が行われると聞いている。

また、本会の非常に大きな問題は若手の会員が少ないことである。そこでいくつか対策が練られた。まず、Congressの経費を削減し会員数減少に対応すること。それと並行してISS/SIC Fellowshipの設立、若手をサポートするプログラムの立ち上げ、Webサイトやソーシャルメディアを運営する小委員会の立ち上げ、医学生・研修医が安い会費で参加できるような仕組み作りなど。次のWCSでは現地の外科医学生や研修医団体を招待することを検討している。また、Collective Member Societiesによる会員増も重要で、Societyごとに会員増を目指すのが効果的である。

北島政樹先生: 以前はISDS日本支部があったが、現在はその機能がなくなっている。もう一度ISDSの方で会員を増やしたり、ファンクションを上げるために日本支部を再編成するなど、しっかりコンファームしていただきたい。

島田英昭先生: よくある経費削減案として、ジャーナルのオンライン化というものがある。現在はペーパーで世界中に郵送しているようだが、莫大な経費になっていると思うので、今後はペーパーレスでよいのではないか。もしよろしければ次の理事会あたりでご提案いただきたい。

和田日本支部事務局長: 現在、片井均先生がWorld Journal of SurgeryのAssociate Editorなので、片井先生と連携を取りつつ進めたい。

6. World Congress of Surgery (WCS) 2017バーゼルについて

北川前日本支部長: 北野先生が今回の日本支部ニュース(第42号)にご寄稿されているが、当初ブエノスアイレスで開催予定であったWCS2017は、財政危機などの社会情勢により開催不能となり、理事会の決議において、イスのバーゼルで8月13-17日に開催されることになった。8月13日にオープニングセレモニー、Kitajima Prizeを開催予定。同日夜にJapan Nightを開催させていただきたい。現地のバーゼルナイトは、8月14日を予定。

7. Collective Member Societies (旧 Integrated Societies)について

和田日本支部事務局長: 定款変更によりIntegrated Societiesから名称変更されたCollective Member Societiesの活動についてご報告願いたい。まず、IAESについては本日欠席の高見博先生から現状についてご報告いただいているので代理でお伝えする。Secretary TreasurerはカナダのDr.Janice L.Pasieka。Congress PresidentはギリシャのDr.Dimitrios A.Linos。日本からは東名古屋病院院長の今井常夫先生がCouncil Member。プログラムに関しては今井先生に取りまとめいただきご提出されると聞いている。

IAES 今井常夫先生: 昨年8月のバンコクでの学会以降、隅病院宮内昭先生の後任としてIAES Councilorを拝命した。今井は3月末で愛知医科大学を退職し、本年4月より国立病院機構東名古屋病院長として勤務している。

和田日本支部事務局長: WCS2017の日本人司会者や演者についてのプログラムの提出締切が本年4月末までだが、日本のIAESとして何か決定事項はあるか。

IAES 今井常夫先生: ISS/SIC本部より、私が司会者になるようにとの連絡があり承諾済である。8月15日(火)午前8:30~10:00のセッションで4~6題の口演司会と聞いている。

和田日本支部事務局長: 次にIATSICだが、現状として日本からは役員が出ていない。

IASMEN 東口高志先生: IASMENのPresident Electを拝命。会員数増加の為に、現PresidentのDr.Dileep LoboやPast PresidentのDr.José Eduardo Aguilar-Nascimentoと連携し、どうすればインターナショナルにメンバー増でできるかを検討中。日本人役員として今回の日本支部ニュースにご寄稿されている小谷穰治先生がSecretary/Treasurer。帝京大学の福島亮治先生がEducation Chair。日本でも会員増のため努力している。次回のWCSプログラムについては、インターネット等でディスカッションしているので決定したらご報告したい。

和田日本支部事務局長: IASMENの小谷穰治先生は、本日ご出席予定であったが、未明の地震によりDMAT要請があり急遽お帰りになられた。次にBSIだが、現在日本から役員が出ていないという状況。前回まで中村清吾先生が役員であった。BSIについても、引き続き日本支部で支援し活動状況を高めていきたい。

ISDS 今野弘之先生: WCS2019のISDS President Electを拝命。去年、会長のDr.Marco G.Pattiより指示を受けプログラムを編成し、上部は決定。下部も案完成。肝胆肺は原案を作成しプログラムメンバーに確認中だが、先ほどご案内があったように急遽ブエノスアイレスからバーゼルへと変更になった影響もあり進行が少し遅れている。ISDS会長のDr.Alberto R.Ferrerresが、日本人の方々にご参加いただかないと本会は成立しないと仰っているので、来年のバーゼルも2019年のクラクオも、ぜひ多くの先生方にご参加いただきたい。

ISDS 島田光生先生: 本日総会後、WCS2017の司会者・演者を決定するためのプログラムについて打合せ予定。できるだけ多くの日本人を盛り込めるよう努めたい。和田日本支部事務局長: 他のISDS日本人役員は、今回の日本支部ニュースにご寄稿の河野透先生がCouncilor、片井均先生がProgram Committee Member。北川雄光先生: ISDSは、この学会に日本から参加する最大のポピュレーションである。最初から日本人を多く推薦いただけると有難い。ISS/SIC日本支部から司会者を推薦するのは最終段階で、補欠を入れる程度になる為、まずはCollective Member Societiesレベルで決定する仕組みになっている。

北島政樹先生: WCSのプログラムは、ISS/SIC本部事務局のMr.Chris Storzが非常に綿密に確認し決定しているので、Chris宛にコンタクトを取るとよい。

北川博昭先生: 小児外科は、The World Federation of Associations of Pediatric Surgeons (WOFAPS)が、ISS/SICと同じような形で進んでいる。WCS開催時に、いつもDr.Jay L.Grosfeldが北島先生とプログラム作成を進めてくださっていたがご高齢となり、今後はアイルランドのDr.Prem Puriに徐々に移行していくかと、先日WOFAPS理事会で仰っていた。WOFAPSや日本小児外科学会も歩調を合わせ、WCSの時だけでなく平素からISS/SICに参加してもらうよう働きかけたい。

8. 機関誌(WJS)について

和田日本支部事務局長: 片井均先生がEditorを務めてくださっているが、本日ご欠席のためご報告する。現在インパクトファクターは2.64。2013年は2.348、その前が2.228なので上がってきている。

9. 次回支部総会日程について

次回の総会は恒例どおり日本臨床外科学会最終日早朝を予定している。

以上(文責 和田則仁)

World Congress of Surgery (WCS) 2017 2017年8月13-17日 Basel, Switzerland

ご案内

2017年8月13日(日)-17日(木)の5日間、イスのバーゼルにおきまして、World Congress of Surgery (旧 International Surgical Week) WCS2017が開催されます。日本の皆様の多数のご参加を心よりお待ち申し上げます。

主な日程(予定) 学術集会 8月14日~17日

8月13日(日) 17:00 オープニングセレモニー・レセプション
20:00 Japan Night (日本人参加者懇親会)
8月14日(月) 8:00 ISS/SIC プレジデント講演、Travel Scholars 紹介
19:00 Basel Night (全体懇親会)
8月15日(火) 19:00 ISDS, IAES, IATSIC, BSI, ASAP, IASMEN 各学会夕食会
8月17日(木) 10:30 Grey Turner 講演
11:15 ISS/SIC 総会
閉会

演題登録締め切り 2017年1月18日(水)

詳細につきましては、WCS2017のウェブサイトをご覧ください。<http://www.wcs2017.org/>
<http://www.wcs2017.org/call-for-abstracts.html> (演題登録について)
日本支部のウェブサイトにも随時情報を掲載します。<http://wss-jp.org/>

Yokohama Award

5名程度 Award 一人当たり10万円

ISS/SIC日本支部は、日本からの若手外科医のWCSの参加を支援しています。応募条件は、応募時点に40歳以下の日本人外科医で、①WCS2017バーゼルにOralの演題を提出、かつ②ISS/SIC日本支部会員からの推薦があること、です。

詳細は日本支部のウェブサイトを参照ください <http://www.wss-jp.org/>

